



容器に分別された特殊銅クズをチェックする作業員。長年の「目利き」が光る(右)いわゆる「ハイス系」クズ。新品に思えるほどの「ドリル刃」に見えるがあくまでも「原料」だ(左)



い。代わりにインゴットや金属スクラップで満たされた容器などが整然と並ぶ。

商いの拠点として川口にこだわる。登記簿上は東京都北区が本社で、1992年に再開発の一環で建設した「NSビル」を有するが、「訪れたお客さんと品物を前にすぐさま商談ができますからね」と、鈴木氏。「現場が命」を実践し、自ら作業着をまといて日夜スクラッ



スパークテスト。火花の色や形状でおおよその成分が分かるという

プと「にらめっこ」する。さて同社のブランド力の秘密は、①歴史に裏打ちされた信頼 ②品質へのこだわり ③安定供給に徹する経営姿勢の3点に収斂される。

創業は1949(昭和24)年で、昨年「還暦」を祝った。しかし厳密なルーツは23(大正12)年の「鈴木金三郎商店」設立まで遡る。まさに「老舗」だ。ちなみに38(昭和13年)



原子吸光分析機

年設立の鈴木金属工業(株)は、日本で初めてピアノ線の国産化に成功した企業としても名高い。

終戦のドタバタを経て49(昭和24年)年ピアノ線の販売及び非鉄製品の販売を目的として「鈴木産業(株)」として再スタートを切った。ところが直後の50(昭和25)年に勃発した朝鮮戦争でわが国が特需を迎えると、一気に原材料不足に陥る。「無資源国」のアキレス腱が露呈した格好だ。



40年前から使われるカーボン分析器だが扱いやすさ・信頼性は「折り紙付き」